

1. 件名：原子力エネルギー協議会との面談
2. 日時：令和5年1月12日（木） 16：00～17：45
3. 場所：原子力規制庁8階会議室
4. 出席者：

原子力規制庁

長官官房技術基盤グループ

システム安全研究部門 小嶋上席技術研究調査官

原子力規制部

原子力規制企画課 金城企画課長、藤森安全管理調査官、斎藤課長補佐、佐藤係長  
高山係長 片桐専門職、望月専門職

実用炉審査部門 塚部上席安全審査官、藤川安全審査官

原子力エネルギー協議会 事務局長 他4名

中部電力株式会社 原子力本部 原子力部 運営グループ長 部長、他1名

東京電力ホールディングス株式会社 原子力運営管理部 燃料管理グループ

マネージャー、他2名

関西電力株式会社 原子力事業本部 原子燃料部門 燃料技術グループ マネージャー、他2名

三菱重工業株式会社 原子力セグメント 炉心・安全技術部 炉心・放射線技術課 主席技師

日立 GE ニュークリア・エナジー株式会社 原子力計画部 原子炉計画グループ

ユニットリーダー主任技師

東芝エネルギーシステムズ株式会社 機器エンジニアリングセンター

原子力安全システム設計部 担当部長、他1名

株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン 炉心設計部

シニアエンジニア、他1名

原子燃料工業株式会社 エンジニアリング事業部 炉心・安全技術部 上席主幹、他2名

三菱原子燃料株式会社 燃料技術本部 燃料・炉心技術部 燃料開発課 統括主査

5. 要旨：

○原子力規制庁から、「第2回高経年化した原発に関する安全規制に関する意見交換会」においても指摘したとおり、原子炉圧力容器の監視試験片の再生利用に係る課題について、現状の丁寧な説明を行うことが必要である旨伝えた。

○原子力規制庁から、事業者等に対し旧原子力安全・保安院時代のトピカルレポートの状況に

ついて、技術評価済みのものは PRIME03・CARO-NA、評価中のものは MNF と NFI の PCI 破損しきい値変更の 4 つであり、PRIME03・CARO-NA は実際の申請への引用実績はない（GNF の 10×10 型式除く）ことを確認した。また、事業者等から、トピカルレポートの更新について、CARO-NA は現状では更新の必要はなく、PRIME03 は軽微な更新（数個の物性モデル関係の係数、QMS 体制）はあるが、技術的妥当性に影響するほどではないため、トピカルの更新を要するものとは考えていない旨の発言があった。

○原子力規制庁から、PRIME03 の変更について軽微な変更であっても更新部分は現在申請中の 10×10 燃料型式証明の審査の中で説明がほしい旨を伝えた。

○事業者等から、PCI 破損しきい値のトピカルレポートの意義について、既存の燃料にも適用可能で燃料本来の安全裕度を示せることから、ニーズがあると考えている旨の発言があったが、原子力規制庁からは、具体的な申請許可と紐付かないのであれば、トピカルとして実施する意義が薄く、審査リソースも限られるため、対応を考えざるを得ず、緊急性も低いようなので関係者間で本件の必要性を整理して欲しい旨を伝えた。

○事業者から、今後新たに提出予定のものは資料 2 に掲載された解析コードである旨の説明があり、原子力規制庁から、これらの解析コードについても、PCI 破損しきい値と同様に具体的な申請と紐付いていないとトピカルレポートとしての意義が薄いので検討を重ねてほしい旨を要望した。

○原子力規制庁から、設置許可申請書等に記載されている 40 年という耐用年数（設計寿命）の根拠について説明を求めた。

○事業者等から、確認の上回答する旨発言があった。

## 6. 配布資料：

資料 1 PCI 破損しきい値の見直しに関するトピカルレポートについて

資料 2 解析コードのトピカルレポート技術評価にかかわる当面の予定について

以上